

研究委託校・実践校の紹介

壮瞥町立壮瞥中学校

今年度の公開研究会は中止

本年度の研究主題を“自ら考え、伝え合うことができる力”の育成～思考ツールを活用した言語活動の充実を通して～として、道徳を中心に全領域で研究を進めています。校内研修では、数多くある思考ツールの中から、教師一人一人が教科や他の活動で活用したツールを紹介し、取り組んできた内容から成果や課題を共有しました。言語活動の充実を図り、伝え合うことの基本となる挨拶の指導を教職員全体で重点的に行ってきています。また、9月に実施した1日防災学校では、全校生徒で避難所運営ゲーム「Doはぐ」に取り組み、意見の発表や話し合い、合意形成による意思決定を実際の活動で体験しました。

“自ら考え、伝え合うことができる力”の育成
～思考ツールを活用した言語活動の充実を通して～



1年特別活動「中学生になって」
目標や抱負を発表しているところ



全校生徒 1日防災学校
「Doはぐ」でグループで相談しながら避難所運営に取り組んでいるところ

厚真町立厚真中央小学校

公開研究会：11月20日(金)

本校は、国語科を研究領域とし、「読むこと」領域に重点を置いて研究を進めてきました。今年度は3年計画のまとめであり、11月20日(金)には、規模を縮小し、町内での公開ではありますが、公開研究会を予定しています。「評価に基づく授業改善」を視点とし、ねらいを達成した児童の姿を具体的に設定して、学習活動や振り返りの場面における実際の姿と比較・検証しながら、研究を進めています。また、研究協議では、グループ協議によるワークショップを行い、指導方法の工夫について成果や課題を明らかにし、授業改善に取り組んでいます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の工夫
～国語科における評価に基づく授業改善を通して～



4年国語科
「アップとルーズで伝える」
対比した内容が明確になるように板書を工夫しているところ



5年国語科「たずねびと」
交流の目的を理解して話し合いをしているところ

登別市立若草小学校

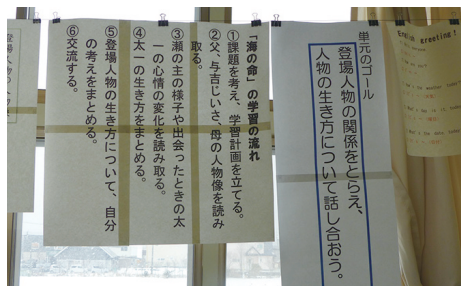
今年度の公開研究会は中止

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり
～系統的に学びを積み上げる国語の授業を通して～

本校は国語科を研究領域として、3年計画で研究を進めています。2年次である今年度は、昨年度の研究主題「学力向上のための日常授業の改善」を焦点化し、改善の視点を「主体性を引き出す工夫」と「目的意識をもって対話をさせる工夫」としました。そのために、学習の目的とゴールを明確にして子どもたちに見通しをもたせること、教師が明確な意図をもって子どもたちに対話的な学びを行わせることを重点に授業改善に取り組んでいます。同時に、教師が6年間の系統を意識して指導することで、学びの着実な積み上げをねらいます。



4年国語科 「ブラタナスの木」
目的意識をもった話し合い活動を行っているところ



6年国語科 「海の命」
単元のゴールを示した掲示物

伊達市立光陵中学校

今年度の公開研究会は中止

小中高との連携を意識した確かな学力の向上
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～

本校では、各教科を研究領域として、令和元年度から2年計画で研究を進めています。昨年度は、「主体的な学び」と「対話的な学び」の工夫に視点を当て、文系・理系・芸体系・特別支援の4部会で、それぞれ実践的な授業研究を積み重ねてきました。今年度は、検証改善サイクルの取組の質の向上を図りながら、学習過程の工夫・改善として「小中高の接続を意識した場面」や「見方・考え方を働かせた場面」を効果的に取り入れた「深い学び」の実現に向けた授業改善の研究に取り組んでいます。



1年保健体育科 「マット運動」
タブレットを活用し、生徒同士の対話から多様な情報を収集しているところ



2年理科 「動物の生活と生物の変遷」
他者の発表から必要な情報を関連付けて、自分の考えを作り上げているところ

白老町立白老中学校

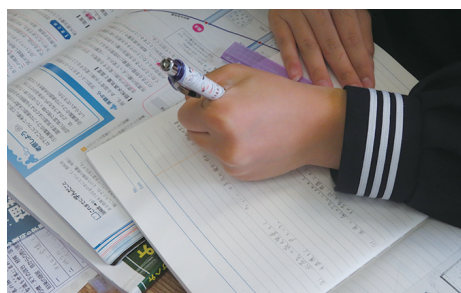
次年度公開研究会開催予定

学ぶ姿勢を身につけ、確かな学力の定着を目指す授業の充実

白老中学校では、「学ぶ姿勢を身につけ、確かな学力の定着を目指す授業の充実」を研究主題としています。課題設定→自力解決→学び合い→まとめ・振り返りを基本とする白老中学校型の課題解決学習を行い、授業改善を行っています。1年次となる昨年度は「学びの質を高める課題設定」に、2年次となる今年度は「まとめ・振り返りを通じた学びの深化」に重点を置いています。定着問題に取り組んだり、まとめや振り返りの視点を与え振り返りシートに蓄積したりすることで、指導と評価の一体化を図っています。



3年数学科 「多項式の乗法」
タブレットを活用して、学習のまとめをしているところ



2年理科 「水蒸気の変化」
まとめとして自作問題を作成しているところ

胆振教育研究所はこんなところです！

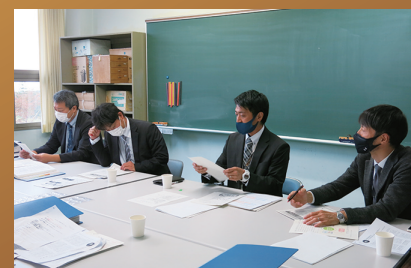
「胆振教育研究所」という言葉は、学校に勤務していれば一度は聞いたことがあるのではないかと思います。日々どのようなことをしているのかご存じない方もたくさんいるかと思います。今回は、日頃、研究所員たちがどのような研修を行っているのかを紹介したいと思います。



普段私たちが研修を行っているのは、登別市にある「カント・レラ」です。



この日は、調査課題研究について、アンケート結果からの考察を検討しています。



様々な立場から、アンケート結果について考えています。もちろん、感染予防対策も万全です！



休憩時には、お互いの学校の様子や授業改善の手立てなどを交流しています。



胆振教育研究所では様々な刊行物も発行しています。皆さん、一度は手に取って見たことがあるのでは？

胆振教育研究所では、胆振教育の向上のため、日々研修しています。研修で困っている時には、ぜひ本研究所のホームページをご覧ください。きっと参考になる実践があります。また、研修で相談したい時や刊行物への感想等は、メールにてご連絡ください。



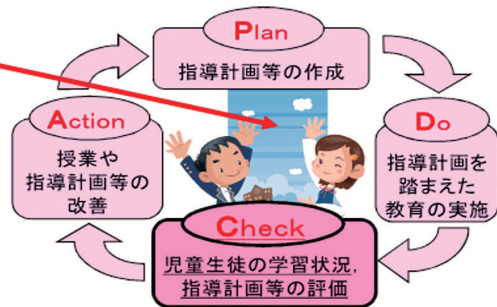
胆振教育研究所HP
QRコード

前回の5分間ミニ研修では、主体的・対話的で深い学びの授業改善について、北海道教育委員会や国立教育政策研究所の資料からお伝えしました。今回は、新学習指導要領における評価についてお伝えしていきたいと思います。

文部科学省から出されている「新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について」には、主体的・対話的で深い学びの視点からの評価の在り方について次のように示されています。

○ 指導と評価の一体化を図るためには、**児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価**という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切。

○ 特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で適切に評価できるようにしていくことが重要。



これを踏まえた上で、学習評価の改善の基本方針について考えていきたいと思います。まず、現状の学習評価の課題として以下のことが挙げられています。

【現状における課題】

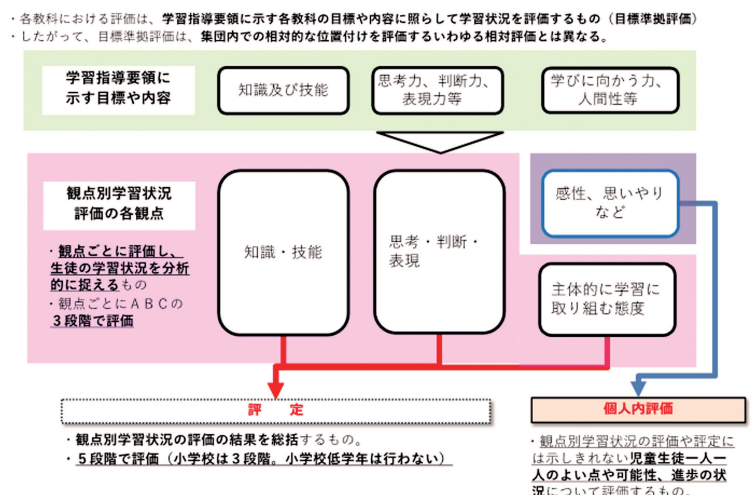
- ・学期末や学年末など事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。

平成31年1月中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より

これらの課題から、改善の基本的な方針として、

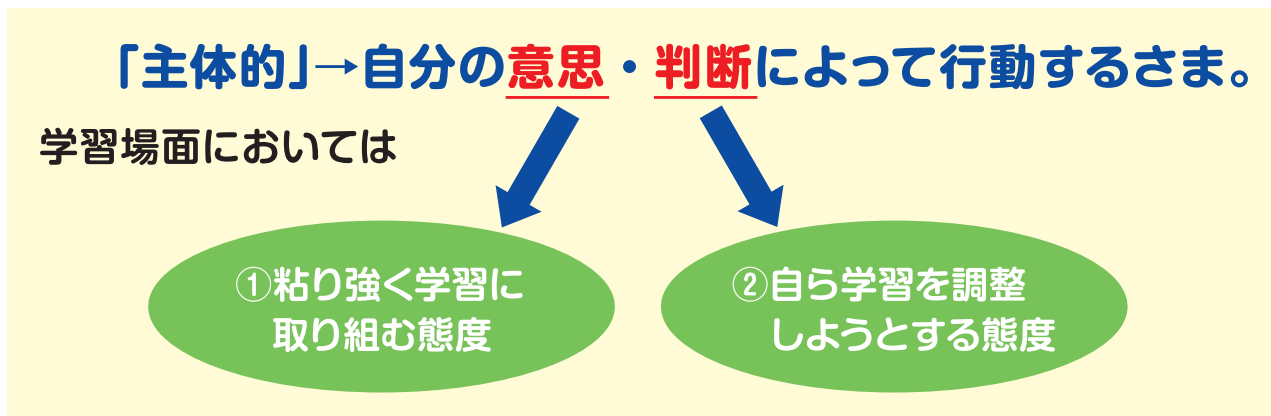
- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

と示されました。それでは具体的にはどのように改善されたのでしょうか。新学習指導要領では、各教科等における目標や内容が「資質・能力の3つの柱」に基づいて整理されたことを踏まえ、観点別学習状況の評価が4観点から3観点到整理されました。各教科における評価の基本構造は次のようになっています。



では、日々の授業の中で私たちはどのように評価をしていけばよいのでしょうか？今回は、先生方が特に評価に悩んでいると思われる「主体的に学習に取り組む態度」に焦点をあてていきたいと思います。

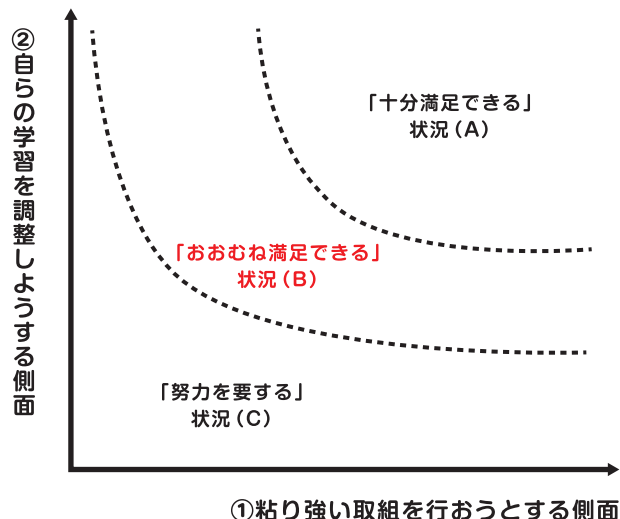
そもそも、「主体的に学習に取り組む態度」とはどのようなものなのでしょうか？先日行われた北海道教育研究所連盟研究発表大会で講演して下さった、国立教育政策研究所の二井先生は、次のように述べられています。



これを分かりやすくしたイメージが、国立教育政策研究所の「評価の在り方ハンドブック」に記されています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。
- これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するのではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

ここで言われている「自ら学習を調整しようとする側面」とは、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意志的な側面のことです。つまり、粘り強く学習に取り組んでいても、苦手なところに取り組まずに得意なことばかりを学習するなど、自らの学習を調整していなかったら「十分満足できる状況」(A)ではないのです。今までのように、授業中の発表の回数やノートを取っているかなどではなく、私たちはこの点をしっかり押さえて評価をしなければなりません。また、このような力を子どもたちにつけるためには、授業で「主体的に学習に取り組む態度」を育てること、そのためには授業改善が必要であることを二井先生は言われています。

小学校では今年度から、中学校では次年度から新学習指導要領が全面実施になります。学習評価の基本的な考え方にもあるように、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが重要です。

今年度の研究について

所報「いぶり」第2号で、「理論研究」の内容についてお伝えしましたが、今回は「調査課題研究」の今年度の内容について紹介します。

調査課題研究 <今年度の調査> ICTの効果的な活用に関する調査

胆振管内の小中学校を対象に、各校における「ICTの効果的な活用」に関するアンケート調査を実施（7月）

アンケートの集計結果から、管内の学校におけるICTの活用状況や効果的な指導の実践例を検討

考察を加え、調査課題研究紀要として発行

（2月末予定）

調査課題研究では、胆振の教育の現状を知ることができます。紀要が発行された際には、ぜひ読んでください。

「冬季研修講座」のご案内

■ 講座のテーマ：「学級経営について～ユニバーサルデザインの視点から～」

■ 講師：高杉 祐之 氏（江別市立大麻小学校教諭）

日時 令和3年1月6日（水） 午前中 会場 鷺別公民館

対象 小・中学校の教員

内容 子どもと教師の困り感を成長に繋げる学級・授業づくり など

※詳細につきましては、各校に送付する要項をご覧ください。

【研修講座 問い合わせ先】 胆振教育研究所 所員（伊達市立光陵中学校 教諭 宮崎雄太郎）
TEL0142-25-4111 FAX 0142-25-4112
Mail：yutaro-miyazaki@ed.city.date.hokkaido.jp

令和2年度 第75回 北海道教育研究所連盟研究発表大会（上川大会） 兼 第62回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

令和2年8月28日（金）に北海道教育研究所連盟研究発表大会が開催されました。今年度は感染拡大予防のため、Web会議システムを活用しての大会となりました。

■ 所長研修会

○「コロナ禍における学校経営及び研究所・センター経営」について

■ 全体会

○第17次共同研究主題（1年次）

「新しい研修の在り方と学校への支援」（北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会）

○研究内容 研究内容1 学びに向かう力の育成に向けた学習指導

研究内容2 主体的に学習に取り組む態度を見取る学習評価

■ 記念講演

○演題 「教育研究所・センター所員の資質能力向上に向けて～学びに向かう力等を育成するための指導と評価の在り方について～」

○講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部

総括研究官 二井正浩氏

※研究発表大会の詳細につきましては、北海道教育研究所連盟のホームページをご覧ください。随時更新される予定です。